

---

# 流星のロックマン スバミソ物語

チョコボール

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

流星のロックマン スバミソ物語

### 【Nコード】

N3044P

### 【作者名】

チヨコボール

### 【あらすじ】

スバミソの甘い話しにきてきます

## 第一話 朝（前書き）

皆さんお久しぶりです

チヨコボールです

アンタ誰？

って思う人も居るでしょう

久しぶりにここに帰ってきました

これから頑張りますので

応援お願いします

## 第一話 朝

ここコダマタウンに

世界の危機を三度救った少年

星河スバルことロックマンが居る

1つ目の危機はFM星人の襲来

2つ目の危機はドクターオリヒメのムーの科学を利用した事件

3つ目の危機はメテオG襲来

この大きな事件を解決した少年星河スバルの生活を見てみよう

メテオGの事件から3ヶ月

『スバル〜！お〜き〜る！』

今騒いで居るのは星河スバルのウィザードでありAM星人のウォー  
ロックである

ウォーロックとスバルの出会い

流星のロックマン1をやってみよう

「むにゃむにゃ……あと五時間」

のんきに寝ている少年は星河スバルである

『バカ！五時間も寝てたら遅刻決定だ』

「ウォーロックうるさいよ、今何時？」

スバルは目を擦りながら  
ウォーロックに時間を聞くと

『7時40分だ!』

「……………」

ウォーロックがスバルに時間を教えると  
スバルは体をビクツと反応して  
飛び起きた

「うわあああ!なんで起こしてくれなかったの」

スバルは着替えながらウォーロックに文句を言った

『俺はちゃんと起こしたぞ!起きなかったのはお前だ!』

ウォーロックはスバルのためにはと思い鞆に教科書を積みながら言った

「ウォーロックごめんな、それと鞆の準備ありがとう」

スバルはちゃっかり  
お礼を忘れずに言った

『解れば良いんだよ、ほら行くぞ!』

ウォーロックはスバルの腰に付いてるハンターVGに戻った

「スバル!委員長さんたち来てるわよ」

スバルの母親こと

星河茜は階段からスバルを呼んだ

「今行くよ母さん！」

スバルはそういうと

ドタドタと階段を降りてきた

スバルの朝はいつもこう始まる

ガチャッ

「待たせてごめん！」

スバルは玄関から出るなり

委員長こと白金ルナに頭を下げた

「ほら、星河君頭を上げて早く行くわよ」

「うん！」

スバルが頭を上げると

いつものメンバーの

牛島ゴンタと最小院キザマロが居た

牛島ゴンタは

ちよっとポツチャリしていて

ガキ大将見たいな感じだが

とても優しいスバルの友達だ

最小院キザマロは

身長が低くて頭脳は大人並のスバルの友達

最後に白金ルナは  
ドリルヘッドのツンデレさんである

「作者、変な説明しないでくれる!」

おっと、白金ルナさんから怖いオーラが  
説明は終わりにしよう

「よろしい!さあ皆行くわよ」

「お〜」「」

そういうと4人仲良く  
学校へと向かって行った

## 第二話 突然の転校生

スバル達一行は各自自分の席に座ってそれぞれ色んなことをしていた

スバルは

「ウォーロック、なんかクラス騒がしくない？」

『忘れたのか？今日は転校生が来るんだぜ』

ウォーロックがスバルにそう説明すると

「そういえばそうだった、すっかり忘れてたよ」

ちよつとおバカなスバル君

委員長は

「モード、スバル君にいつ告白したら良いと思う？」

『ルナちゃんの言いやすいタイミングで良いと思います』

こちらは、恋愛話をしていた

キザマロは

「今日の伸びっ子体操は何時からでしたっけ？」

『16時からだよキザマロ君』

「時間的に間に合いますね」

こちらは、むなしいはなしを……



「むなしい言わないでください」

叱られちゃったよ

ゴントは

「バクバクバク」

『ゴンタ学校着いたばっかだぞ』

ゴンタは早弁をしていた  
そしてウィザードのオックスにつっこまれてる

「仕方ないだろ、腹減ったんだから」

『昼はどうするんだ』

「あっ！」

ゴンタはそういうと

卵焼き1つ残して弁当箱をしめた

「みんな、席に着けよ」

教室から育田道徳が入ってきた

特徴は髪の毛はモジャモジャ

肩にフラスコをかけた先生である

「よし！みんな席に着いたな、じゃあ転校生入ってきて」

育田はみんなが席に着いたことを確認すると

ドアに向かって呼び掛けた

ガラガラガラガラ

扉が開くと……………

「おはようございます。今日からみんなと勉強することになった、響ミソラです。よろしくお願いします」

転校生は国民的シンガーソングライターでありスバルの初めてのブラザー響ミソラであった

「……………」

クラスのスバルを除いてみんな呆然としていた

「転校生に拍手もないのか？」

育田がそういうと

パチパチパチパチ！

「ミソラちゃんこれからよろしく」

「ミソラちゃんサイン頂戴」

「ミソラちゃん付き合って」

など、色々なことを言った

「まあ、一名バカはほっといて、響席はどこがいい？」

育田がそういうと、そのバカはへこんで顔をふせた（笑）

「私スバル君の隣が良いです」

ミソラはそういうとスバルのもとへ歩いて行った

「スバル君これからよろしくね」

「……………」

スバルが呆然としなかった理由それは寝てたからである

「ふわあああ、なんでミソラちゃん居るの？」

スバルは目が覚めて

ミソラが居ることが疑問に思い質問した

「転校生してきたんだよ。よろしくね」

ミソラはニッコリ笑って言った

その時スバルに向かって沢山の殺気が出てたのは言うまでもない

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3044p/>

---

流星のロックマン スバミソ物語

2010年12月15日18時02分発行